

バードリサーチ

寄付者による投票で
支援額が決まる

調査研究支援プロジェクト

あなたの1票を、調査研究の推進力に！



1. 選ぶ

バードリサーチが募集し、一次選考によって選んだ最大9件+バードリサーチからの1件の調査・研究プランの中から、応援したいプランを選んでください。

2. 寄付

個人一口
3,000円

*何口でもOKです。

3. 投票

1口の寄付に対して1票をお預けします。寄付が複数口の場合、ひとつのプランに何票投票しても構いませんし、複数のプランに投票することもできます。投票先を指定しない寄付も大歓迎です。

●寄付&投票するには...



a. クレジットカードで寄付を送る場合

下記のホームページをご覧ください。

http://www.bird-research.jp/1_event/aid/kifu.html

b. 銀行または郵便局から寄付を送る場合



Step 1. メールまたはFaxを送る。

下記の担当宛てにメールかFaxで次の項目を伝えてください。

- ・お名前とご住所
- ・メールアドレス
- ・寄付口数
- ・支援する調査・研究プラン
(寄付が複数口の場合は、プランごとの票数)
- ・あなたのお名前を支援先に伝えて良いかどうか

バードリサーチ調査研究支援プロジェクト担当
高木 憲太郎

E-mail: br@bird-research.jp

Fax: 042-505-4044

Step 2. お金を振り込む。

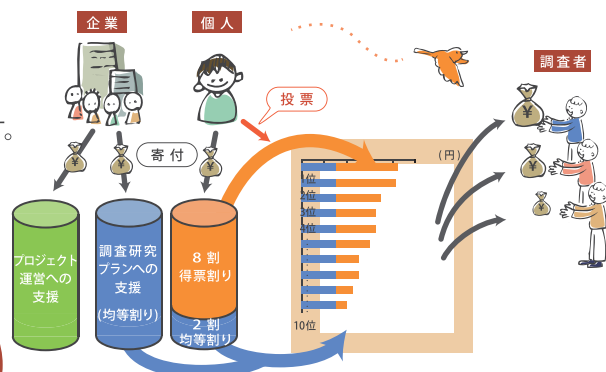
下記のいずれかの口座に合計額を振り込んでください。
(振り込み手数料はご負担ください。)

- PayPay 銀行 (銀行番号 0033)
本店営業部 (支店番号 001)
普通 8148578
名義: トクヒ) バードリサーチ
- 郵便振替口座
記号番号: 00150-9-685654
名義: 特定非営利活動法人 バードリサーチ
- 郵便貯金 (ばるる口座)
記号番号: 10120-49233551
名義: 特定非営利活動法人 バードリサーチ

●支援額の決定方法

集まった寄付のうち、2割を支援先に均等に分配し、8割を得票数に応じて支援先に分配します。また、企業からいただいた寄付は支援先に均等に分配します。
1件のプランへの支援額は、1万円～50万円程度を想定しています。

●スケジュール



2024年度 支援先調査研究プランのご紹介

2024年9月～10月に支援先となる調査研究プランの募集を行ない、23件のプランが集まりました。その中から支援先を決定するため、上田恵介立教大学名誉教授、金井裕日本野鳥の会参与、出口智広兵庫県立大学准教授、水田拓山階鳥類研究所自然誌・保全研究ディレクター、植田睦之バードリサーチ前代表の5名で一次審査を行ない8件の支援先を選定しました。バードリサーチからの1件を含め、9件の調査研究プランの概要をご紹介します。詳細はホームページにPDFで掲載しています。



鳥の翼を操る筋肉の秘密 ～立体的な動きを可能にする仕組みを解明せよ～

簗島あすか（千葉大学機能生態学研究室）

簗島さんは風を受けるための翼膜に筋肉がついていることに着目しました。しかも、種によってその筋肉が上腕二頭筋から発生している種と、胸筋から発生している種がいることから、収斂進化により獲得された何かの機能を有していそうです。翼をひねるなどの動作や生態的な特徴と関係しているのではないか、簗島さんは種による筋肉の形状の違いを分析する計画です。分析対象となる標本はある程度確保できる予定ですが、不足するヨタカやアマツバメ、オウム、インコなどの標本を求めています。



ウミスズメの繁殖地を探せ！三陸沿岸の海上目視・音声調査

森野千里・小島達樹・小澤光莉（東洋大学大学院生命科学研究科）

絶滅危惧IA類に指定されているウミスズメは主に北海道の離島で繁殖していますが、森野さんたちは繁殖期に岩手県沿岸でウミスズメの群れを確認したことから、東北の沿岸部にも繁殖地があるのではないかと考え、それを見つけ出そうと計画しています。陸と海それぞれ3割を健全な生態系として保全しようという目標である「30by30」において、日本の海の保全は圧倒的に遅れています。希少な鳥類の繁殖地を特定することで、より大事な場所が効果的に保全される、そんな成果も期待できそうです。



エコロジカルトラップからスズメを守る

～巣立ち率の悪い営巣環境とその条件に関する調査～

岡村悠太郎（名城大学大学院農学研究科修士課程1年）・橋本啓史（名城大学農学部）

身近な鳥ながら減少が懸念されているスズメ。電柱の腕金など人工構造物の隙間に営巣することが知られていますが、太陽光にさらされる腕金などの内部は相当な温度にまで上昇しているハズです。腕金はスズメを捕まえて殺すことを意図していませんが結果的にそんなトラップになってしまっていないでしょうか？岡村さんと橋本さんは模擬巣も用いて、孵化したヒナのうち巣立つことができたヒナの数と巢内温度の関係を調査します。



みんなで夜のフライトコール (NFC) 録音調査 (2年目)

大坂英樹（トリルラボ）

夜空を鳴きながら渡っていくホオジロ類やツグミ類の声によるモニタリング体制づくりの2年目の挑戦です。この調査は、大坂さんひとりではなく、参加型の調査として実施されていて、北海道から沖縄まで15か所での録音が行われています。今年度もこの調査を継続（新規参加者も募集しています）しつつ、初年度に蓄積した地鳴きの録音音源をもとに地鳴きの頻度分析や、音源データベースの公開、自動と手動を組み合わせた種判別のためのシステム開発、安価な集音&録音器の開発などを行う計画です。

鳥は離婚の準備をしてるか？

坂井充・中田知伸（北海道大学理学部4年）・堀内晴（北海道大学理学院修士1年）

つがいになったものの、何かしらの理由で離婚し、別の個体とつがいになることが起きます。つがいの一方が死んでしまい、新たな相手を見つける場合もありますが、より質の高い子孫を多く残すために、つがい相手よりも良い個体に出会った際、離婚を選択する行動が進化することも考えられます。そこで坂井さんたちは個体群のほとんどが足環標識されているダイトウコノハズクを対象に、離婚の前後でより質の高い相手を選んでいるか、再婚により巣立ちヒナ数を増やすことができているか調べます。

ホイピピピピピ！！

春を告げる渡り鳥、チュウシャクシギの命をつなぐ渡りルートを探る

細谷淳1、田谷昌仁1,2、井上遠、仲村昇3

(1.日本鳥類標識協会2.東北大学生命科学研究科3.(公財)山階鳥類研究所)

特徴的な声を持ち、日本を春や秋に通過するチュウシャクシギですが、個体数の減少がモニタリングサイト1000などの調査で指摘されています。原因には狩猟のほか生息環境の変化が考えられており、洋上風力の影響も心配です。しかし、中継地の日本でどのように環境を選んで過ごしているのか、繁殖地や越冬地がどこなのかもわかっていません。そこで、細谷さんたちは春にこの鳥を捕まえてGPSロガーを装着し、移動を追跡しようと計画しています。

食害防除策が非害鳥であるタゲリに与える影響の解明

知花峻輝（長崎大学環境科学部）・大槻恒介（長崎大学大学院水産・環境総合研究科）

昼間水に浮かんでいるカモ類の中には夜中に農地に飛来して採食しているものがあります。諫早中央干拓ではカモ類による麦の新芽の食害が問題となっていて、光照射による追い払いが行われています。知花さんと大槻さんは農業被害に関わっていないタゲリが、この光に敏感に反応していることに気づきました。そこで、タゲリにGPSロガーを装着し、光の照射を受けた時の逃避行動を調べ、採餌や休息が邪魔されるような影響や、越冬場所の選択に影響を及ぼしているかどうか解析しようとしています。

遺伝子と形態から紐解く多種多様なオオコノハズクの謎

江指万里・宗像みずほ（北海道大学・理学院）

外見や体サイズに大きな個体差が見られるオオコノハズク。江指さんと宗像さんはこれまでに全国130個体から得られているデータに加えて、サンプルが少ない本州や遺伝的な分化が疑われる佐渡島などで捕獲を行い、血液からDNAを分析するとともに、外部形態の計測を行う計画です。それによって、オオコノハズクの遺伝構造を解明し、外部形態と比較することで、本種や近縁種の分類や亜種構造を解くための糸口を見つけようとしています。

バードウォッチングスキルアップ手法の研究

バードリサーチ

初心者が野鳥の調査に関わりたと思ってバードリサーチに入会したとき、イチから野鳥の名前を覚えるのは大きな障壁になっているはず。そこで、鳥クイズや鳴き声図鑑のデータベースの整理や強化を進め、そのデータベースを利用し、アンケート調査やテストを行います。そして、識別の難しいところや種群などの抽出を行い、バードウォッチングスキルアップの効率的な学習方法を探索します。

バードリサーチ 調査研究支援プロジェクト

https://www.bird-research.jp/1_event/aid/kifu.html





バードリサーチ 調査研究支援プロジェクト

支援意思表示 Fax 連絡票

お名前： () ご住所： (〒)

E-mail： () 支援先にあなたのお名前を伝えたくない場合は右の口にチェックしてください

001 鳥の翼を操る筋肉の秘密～立体的な動きを可能にする仕組みを解明せよ～
 蓑島あすか（千葉大学機能生態学研究室） () 票

002 ウミスズメの繁殖地を探せ！三陸沿岸の海上目視・音声調査
 森野千里・小島達樹・小澤光莉（東洋大学大学院生命科学研究科） () 票

003 エコロジカルトラップからスズメを守る
 ～巣立ち率の悪い営巣環境とその条件に関する調査～
 岡村悠太郎（名城大学大学院農学研究科修士課程1年）・橋本啓史（名城大学農学部） () 票

004 みんなで夜のフライトコール(NFC)録音調査（2年目）
 大坂英樹（トリルラボ） () 票

005 鳥は離婚の準備をしてるか？
 坂井充・中田知伸（北海道大学理学部4年）・堀内晴（北海道大学理学院修士1年） () 票

006 ホイピピピピピピ！！春を告げる渡り鳥、チュウシャクシギの命をつなぐ渡りルートを探る
 細谷淳1、田谷昌仁1,2、井上遠、仲村昇3
 （1.日本鳥類標識協会2.東北大学生命科学研究科3.(公財)山階鳥類研究所） () 票

007 食害防除策が非害鳥であるタゲリに与える影響の解明
 知花峻輝（長崎大学環境科学部）・大槻恒介（長崎大学大学院水産・環境総合研究科） () 票

008 遺伝子と形態から紐解く多種多様なオオコノハズクの謎
 江指万里・宗像みずほ（北海道大学・理学院） () 票

009 バードウォッチングスキルアップ手法の研究
 バードリサーチ () 票

■支援先を決めずに寄付する () 票

銀行または郵便局から寄付を送ってくださる場合は、メールの代わりに、この用紙を使って Fax でご連絡いただくこともできます。
 Fax 後に銀行または郵便局の指定口座に、合計額を振り込んでください。

1 票 = 1 口 3000 円 × 合計 () 票
 = 寄付額合計 () 円



送付・連絡先

バードリサーチ調査研究支援プロジェクト担当 高木憲太郎

E-mail br@bird-research.jp

Fax 042-505-4044